

G-フィックスを 正しくお使いいただくために



1. 被着面の清掃は充分に行ってください

- 被着面にプラーク、歯石、沈着物が付着していると接着力が低下するため、PMT Cなどによりしっかりと歯面清掃を行ってください。

歯面清掃



2. 前処理は広い範囲で行ってください

- エッチング材は右図に示すように広い範囲に塗布してください。
また、30秒間充分に処理してください。

歯面処理



※エッチング材での歯面処理後、乾燥した歯面が白く改質していない場合は再度歯面処理操作を繰り返してください。

- 被着面の材質に合った前処理を必ず行ってください。

被着面が貴金属・非貴金属
(前装冠など)の場合



G-マルチプライマー/メタルプライマー-Z

被着面がセラミックス・レジ
(コンポジットレジン, CAD/CAM 冠)の場合



G-マルチプライマー/セラミックプライマー-II

被着面を口腔内サンドブラスト、あるいはダイヤモンドポイント等で粗造化し、十分に水洗、乾燥します。

被着面に筆などを用いて各種プライマーを塗布します。そして、乾燥させた後、G-フィックスを塗布します。

- 被着面の前処理後は充分に乾燥し、唾液、血液等で汚染されないようにご注意ください。

3. G-フィックスは歯を覆うように固定してください

- G-フィックスは隣接面だけでなく唇側面と舌側面にも築盛して、歯を覆うように固定してください。

※築盛の目安としては、幅は切縁の2分の1、高さは歯間乳頭の上を数mm開けて、被着面を大きくとってください。

動揺歯の固定

水平面観



4. 特にTC (歯冠色) では、光照射時にできるだけレジンペーストに近付けて光照射を行ってください

- TC (Tooth Color) は、クリアよりも透明性がやや低く、光硬化深度が浅いため、照射方法によっては初期の接着力が低下する恐れがあります。

光照射時は、できるだけレジンペーストに近付けて光照射を行ってください。

5. G-フィックスは動揺歯固定用接着材料であり、その他の用途では使用できません

- G-フィックスは動揺歯固定以外の合着や接着には使用できません。
- 下図のようなダイレクトボンドブリッジでは被着面が小さく、十分な接着耐久性が得られないため、使用しないでください。



6. 咬合調整は必ず行ってください

- 固定部位に過大な咬合力が加わった場合、固定部の脱落や破損が起こる原因となります。そのため、固定部と隣在歯に咬合力が集中しないように咬合調整は必ず行ってください。

形態修正・研磨・咬合調整



7. 多数歯を固定する場合は、重合収縮にご注意ください

- 多数歯を固定する場合、レジンペーストの重合収縮による応力を緩和するために、右に示すような順序で2歯ずつ固定してください。



8. 強い咬合の臼歯部やメタル、セラミック修復物を伴うケースなどでは、補強線の併用をお奨めします

- 1) 動揺歯固定では、大きな動揺、強い咬合、ブラキシズムなどの影響や被着面の状態により脱離することがありますのでご注意ください。
- 2) **メタル、セラミック修復物を伴うケースでは歯質よりも接着力が低下する傾向があり、プライマーを用いても脱離することがありますのでご注意ください。**

以上のような場合にはワイヤーなど補強線の併用をお勧めします。



9. 外れてしまった場合、追加築盛はしないでください

- 固定部位が脱離してしまった場合は、全ての硬化物を取り除いてから再度歯面処理を行い、再固定してください。